

栃木県養護教育研究会・会報

**かがやき**

第40号

平成25年10月 8日

発行者 栃木県養護教育研究会  
 会長 大豆生田 聡  
 編集者 栃木県養護教育研究会事務局

**あいさつ**

栃木県養護教育研究会  
 会長 大豆生田 聡

今年度、本研究会会長を仰せつかりました日光明峰高校の大豆生田 聡(おおまめうだ さとし)です。どうぞ、よろしく願いいたします。私は、これまで養護教諭の皆様には様々な形でお世話になってまいりました。学校現場では、体育教師として、あるいは保健主事の立場で生徒への健康教育、保健指導等とともに携わり、教育委員会事務局では、各種研修会の協力や関東・全国大会の開催・運営など、その都度、大変なお骨折りをいただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、会員の皆様には、年度当初から続く各種検診・検査も滞りなく済み、その取りまとめや報告を終了され、ホッと一息入れられている頃かと思います。

この学校検診について、今も忘れられない思い出があります。

私が高校生の時の名物養護教諭の痛快なお話です。フルネームは忘れましたが、生徒達、そして先生も皆、彼女のことを畏敬の念をもって「おきよ婆さん」と呼んでいました。年齢は定年間近、もしくは定年をすでに過ぎていたかもしれません。噂では、若い時は従軍看護婦として戦地を転々としていたとのこと。体格、声量、眼光、全身から発する迫力は、まさに戦場を生き抜いてきた証しとして充分説得力のあるものでした。

その時代も年度当初は各種検診が続き「おきよ婆さん」も忙しい毎日が続きます。ちなみに私の出身高校は男子高校で、学年10クラス、全校生徒1,200名のマンモス高校でした。検尿や検便など提出日に忘れる生徒の数も多かったように思います。しかし、「おきよ婆さん」はひるみません。授業中の教室にノックもせずガラガラ、ずけずけと入ってくると、先生にはお構いなしで「●●と▲▲。前に入る!」。びくびく出て来た生徒に検便の容器を押し付けるように渡すと、「5分待ってやるから、今すぐ便所でひねり出して来いや!」と一喝。教室は静まりかえり、先生は口をあぐりと開け放し、「おきよ婆さん」は颯爽と引き上げる。その後ろを該当の生徒はすすりすすり引き立てられていく。毎年、この問答無用の回収作業が我が母校の恒例行事でした。

誤解を招かないように弁明しますが、「おきよ婆さん」は、慈愛に満ちた養護教諭であり、何より生徒思いでした。その生徒達に自らの健康としっかり向き合ってもらいたかった。戦時中、戦地では若い兵士が銃弾に倒れ、母国では食糧難で栄養失調の子どもがあふれている。そんな時代を過ごして、今の世の中は国が健康を保つために、いろいろな角度から検診・検査を施してくれる。その恵まれた環境や機会を何故、無駄に粗末にするのか。そのことが「おきよ婆さん」には耐え難かったのです。

時代は移り、現代は、生徒・保護者そして教職員が健康の大切さと検診等の意義について十分に理解し、行動に反映されるためには、学校全体を通して組織だった健康教育の充実が不可欠であります。

ただ、「おきよ婆さん」が「授業より先に考えなくてはならないものは自分自身の健康なんだよ。」と一人で立ち向かった熱い思いだけは、しっかりと受け継いで行きたいと思っています。

## 平成26年度「全国養護教諭研究大会」に参加して

上三川町立明治小学校 石川 千加子

8月8日（木）～9（金）の2日間、山梨県甲府市で行われた「全国養護教諭研究大会」に参加して参りました。

記念講演では、「愛と夢と勇気を育む健康な学校づくり～WHOヘルスプロモーションの視点から～」と題し、順天堂大学大学院教授・島内憲夫先生からお話を聞きました。健康な学校づくりには、ヘルスプロモーションの5つの活動（①健康的な公共政策づくり②健康を支援する環境づくり③地域活動の強化④個人技術の開発⑤ヘルスサービスの方向転換）を展開する必要があること。子どもたちにとって学校は「夢のある楽しい場・夢工場」でなければならないという言葉が印象的でした。愛にあふれたお話で私自身温かい気持ちになる講演でした。基調講演「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」（文部科学省健康教育調査官・岩崎信子先生）では、学校保健安全法や保健室利用状況調査からのお話で、日常の児童生徒の心身の健康状態を的確に把握し、多様化している現代的健康課題に対応してほしいとのことでした。シンポジウム「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」、課題別研究協議会「児童生徒の心身の健康づくりを推進する健康相談の進め方」では具体的な活動や質疑応答から（思っていた通りの暑い甲府でしたが）先生方の熱い思いを感じることができました。



今回の研究大会は「地域」がキーワードだったように思います。健康教育を推進するために、学校や家庭の連携だけでなく、「地域」の連携が大切なのだと実感しました。



### 地区だより(下都賀地区)

栃木市立栃木中央小学校 中村 乃里代

市町合併に伴い、県内で最も大きな部会となった下都賀地区部会です。

下都賀地区としての研修会は年3回ですが、各市町単位の地区でも研修会などそれぞれ活発に活動し、不定期ではありますが、各地区毎の研究発表も行っています。

今年度の活動としては、年度初めに女子栄養大学教授の三木とみ子先生から、「養護教諭が行う保健指導」（学校保健安全法第9条を受けて）について御講演をいただきました。改訂された学校保健安全法における養護教諭の解釈について、講演時間を超過するほど熱のこもったお話に、会員それぞれがたくさんのエネルギーを注入された思いでした。7月には、東京学芸大学教授の竹鼻ゆかり先生による、「養護教諭の実践力を高めるケースメソッド教育」について御講演いただきました。会員の人数の関係で、残念ながら実際にケースメソッド実践の研修を行うことはできませんでしたが、事例検討とケースメソッドの違いや、その活用方法について学ぶことができ、さらに、養護教諭とは何かについてもう一度考え直すきっかけをいただくこともできました。11月には、栃木市の研究発表と臨床心理士の先生による講演が予定されています。また、今年度は、懸案だったホームページの定期的な更新を目指しています。このホームページでは、下都賀地区研修会の様子や各会員に向けての連絡の他、各地区での活動の紹介などに活用しながら、下都賀地区として結束することにも生かしていけたらと考えています。

大きな部会であることの利点を生かしながら、今後も、各校にたった一人しかいない養護教諭の、資質向上を図るためにより有効な研修ができるよう、会員の声を反映しながら運営していきたいと考えています。

～～～本部署員を退任された先生方から～～～

\* \* \* \* \*

佐野市立北中学校 佐藤 静江

養護教諭としての長い教員人生において、実に貴重な体験をさせていただいた6年間でした。全国養護教諭研究大会が本県で開催された平成19年度から、「かがやき」の発行や研修会開催通知の発送に携わった4年間、研修会の運営に携わった2年間。力不足の私ではありましたが、多くの体験が自分自身を育ててくれたように思える実のある6年間でした。素晴らしい仲間と一緒に仕事をさせていただき、養護教諭の仕事を見直す良い機会にもなりました。お世話になった多くの先生方に感謝申し上げます。また、本会が、今後益々発展することをお祈りいたします。

\* \* \* \* \*

小山市立羽川小学校 三尾谷 由美子

本会の役員のスタートは、宇大の和唐教授の部屋でした。第4版の執務の手引きの改訂作業を行っていました。あれから10年。力量を高めるためのコンピュータ研修会の立ち上げ、全養連の研究誌「瑞星」の編集、研修会の講師選び等々、そして、昨年度発行した法改正を受けての第5版の執務の手引きの編集にも関わらせていただきました。おかげさまで、養護教諭の原点や多様な役割を問い直すこともできました。仲間も増えました。会員の皆様の協力あってこそ本会が成り立つことも感じました。会員、役員の皆様方に感謝です。ありがとうございました。

\* \* \* \* \*

那須町立東陽中学校 小貫 多美子

研修会の時、役員のテキパキとした姿を見ていた時に、私がおの立場になるとは考えもしませんでした。不安と緊張の日が昨日のこのようで、あっという間の2期4年間でした。研修会の企画や準備、ホームページの作成など、全てが勉強になり貴重な経験をさせていただきました。また、他地区や他校種の先生方との情報交換も貴重な時間でした。主にしろたえの編集を担当させていただきましたが、編集費に見合った冊子ができたか常に自問自答し、発刊できた時の喜びは忘れません。会員の皆様、各地区の理事さん、原稿を寄せてくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。

\* \* \* \* \*

県立栃木工業高等学校 大出 洋子

4年間、役員として主に「しろたえ」編集を担当しました。会員の皆様のご協力のもと「しろたえ」が無事に出来上がった時は、達成感がありました。力不足で皆様にご迷惑をおかけしたこともあると思いますが、役員の仕事を通して素敵な先生方と出会えたことは、私の大きな財産です。また、貴重な体験をさせていただいたことに感謝申し上げます。

\* \* \* \* \*

県立那須拓陽高等学校 安藤 季美

私は4年間、主に「調査研究」と「執務の手引き（第5改訂版）」を担当させていただきました。調査研究のテーマ決定には、各校一人で執務している仲間に役立つ「旬」の情報を届けたい、と言う事務局の思いが詰まっていることを知りました。これまで当たり前のように研修に参加し「しろたえ」を手にして自分が、その発信源として関わることは不安でしたが、地区理事の先生方のお陰で、無事形にすることが出来ました。また、「執務の手引」の執筆に関わられたことは、日頃の執務を見直すきっかけになりました。このような機会を与えてくれた皆様に感謝しています。ありがとうございました。

\* \* \* \* \*

矢板市立豊田小学校 阿美 優子

学びを与えて下さった皆様に心から感謝申し上げます。各地区、各学校の養護教諭の方々と一緒に学び合えたことは、自分にとってプラスになり、活動することができました。自分と我が地区の活動しか理解していませんでしたが、会員皆様の考えや思いは、目標は？児童・生徒・教職員や保護者等のニーズを考え、私たち会として今、できることは何かを思い活動していたかなど、振り返ることがあります。

皆様の御協力により、4年間活動できました。本当にありがとうございました。

## 第2回 「レベルアップ研修会」を開催しました！

### 「レベルアップ研修会」に参加して

さくら市立氏家中学校 阿久津 季子

夏休み終了間近の8月22日に、第2回レベルアップ研修会が栃木県立博物館で開催されました。

午前は、日本赤十字社指導講師 須永良志先生より「学校における災害対策」についての講話でした。講演や講習などを行い災害への意識の継続を図ることが重要であるということでした。災害時の携帯物、被災者目線での支援、また学校が避難所になることも想定して、平時から校内地図の作成や鍵の保管場所の確認、学校の機能を残しつつ避難者への支援や活動ができるように、保護者や地域に対しても情報を発信し続ける必要性を訴えていました。さらに、意識レベルのチェック法やロープワークまで幅広くご講話いただきました。「災害が起きない場所はない！」という言葉をお忘れず生活したいと思います。

午後は、獨協医科大学附属大学病院小児科講師 志村直人先生より「黙って見守って1型糖尿病、温かく関わって2型糖尿病」についての講話でした。1型糖尿病と2型糖尿病それぞれの発症の状況や症状、投薬や経過、さらに本人や家族への対応など専門的な内容を学ぶことができました。「インスリンを打てば普通です。糖尿病治療は、糖尿病合併症の現れを阻止するために、今だけでなく、長い人生を考えた毎日毎食の治療で、糖尿病の主治医は子ども自身である。」との説明に、子どもを信じて、子ども自身が自己管理できるように支えていくことが治療のポイントであることがわかりました。学校では、腎臓検診の結果、また体重の減少や多飲多尿の症状があった場合には糖尿病も考えて対応し、早期発見・早期治療につなげていきたいと思います。

様々な健康課題を抱える児童生徒が安心して学校生活を送れるように、私自身研修に努めたいと思います。研修の機会を設けていただきましてありがとうございました。



### 第2回レベルアップ研修会のアンケートより

レベルアップ研修会担当

昨年度より始まりました、レベルアップ研修会が8月22日に栃木県立博物館で一日行われました。今回は希望者が定員を超えなかったため申込者全員が受講できました。

研修会に参加された方のアンケート調査結果の一部を紹介いたします。

	良かった	普通	あまり良くない	良くない
災害対策関連	131人	15人	0人	0人
糖尿病関連	128人	18人	0人	0人

#### ◆参加者の感想

- ・災害対策では学校の保健室が、養護教諭が、どんな役割を求められるのかが分かった。ロープの結び方など再度学ぶ機会が欲しい。(たくさんの方希望)
- ・1型糖尿病、2型糖尿病の違いがよく分かった。学校としてできる配慮がたくさんあることに気づいた。心のケアや児童の自己管理能力の育成の手助けがとても大切だと感じた。

#### ◇担当から

一部の先生に事務手続きが遅くなりご迷惑をお掛けしました。今後も先生方の要望に応えられるよう企画しますので多くの方の参加をお願いいたします。

